

貯 法：冷所保存

有効期間：2年

複合ビタミン剤

承認番号 16000AMZ04105

販売開始 1985年8月

プレビタ[®]S注射液

Plevita S Injection

処方箋医薬品

(注意－医師等の処方箋により使用すること)

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

本剤及びチアミン塩化物塩酸塩に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 組成・性状

3.1 組成

販売名	プレビタS注射液		
容量	5mL		
有効成分	1管中		
	日局 チアミン塩化物塩酸塩	10	mg
	日局 リボフラビンリン酸エステルナトリウム	6.355	mg
	(リボフラビンとして)	5	mg
添加剤	日局 アスコルビン酸	200	mg
	1管中		
添加剤	プロピレングリコール	50	mg
	タウリン	20	mg
	クエン酸水和物		
	pH調節剤		

3.2 製剤の性状

販売名	プレビタS注射液		
剤形	水性注射液		
性状	黄色～だいたい黄色澄明の液		
pH	4.5～5.5		
浸透圧比 (生理食塩液に 対する比)	2.0～2.2		

4. 効能・効果

本剤に含まれるビタミン類の需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給（消耗性疾患、妊産婦、授乳婦など）。
効果がないのに月余にわたって漫然と使用すべきでない。

6. 用法・用量

通常成人1日5～10mLを、糖液、電解質補液、生理食塩液あるいは総合アミノ酸注射液等に混じ、静脈内又は点滴静脈内注射する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.7 小児等

小児等を対象とした臨床試験は実施していない。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副作用

11.1.1 ショック（頻度不明）

血圧降下、胸内苦悶、呼吸困難等があらわれた場合には、直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。

11.2 その他の副作用

	頻度不明
過敏症	発疹、そう痒感等
消化器	悪心・嘔吐等

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

12.1 アスコルビン酸を含有しているため、尿糖の検出を妨害することがある。また、各種の尿検査（潜血、ビリルビン、亜硝酸塩）・便潜血反応検査で、偽陰性を呈することがある。

12.2 リボフラビンリン酸エステルナトリウムを含有しているため、尿を黄変させ、臨床検査値に影響を与えることがある。

14. 適用上の注意

14.1 薬剤調製時の注意

配合薬剤によってビタミンの分解が促進されることがあるので、注意すること。

14.2 薬剤投与時の注意

14.2.1 静脈内投与により血管痛を起こすことがあるので、注射速度はできるだけ遅くすること。

14.2.2 ビタミンの光分解を防ぐため、遮光カバー（橙黄褐色ポリエチレン製カバー等）で輸液瓶又は輸液バッグを被覆して使用すること。

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

18.1.1 チアミン

チアミン（ビタミンB₁）はATP存在下にthiamine diphosphateに変換し、生理作用を現す。糖質、タンパク質、脂質代謝で、また、TCAサイクルの関門として重要な位置を占めるピルビン酸の脱炭酸反応やTCAサイクル内の α -ケトグルタル酸の脱炭酸反応に関与している。また、トランスケトラーゼの補酵素として五炭糖リン酸回路での糖代謝や核酸代謝にも関与している¹⁾。

18.1.2 リボフラビン

リボフラビン（ビタミンB₂）は吸収された後、小腸・肝でリン酸化されFMN（flavin mononucleotide）となり、更に大部分はATPの作用によりFAD（flavin adenine dinucleotide）に変換される。このFAD、FMNがフラビン酵素の補酵素として細胞内の酸化還元系やミトコンドリアにおける電子伝達系に働き、糖質、脂質、タンパク質などの生体内代謝に広く関与している²⁾。

18.1.3 アスコルビン酸

アスコルビン酸（ビタミンC）の代表的な欠乏症が壊血病であり、出血傾向の増大、骨・歯牙の発達遅延、抗体産生能や創傷治癒能の低下などを起こす。ビタミンCの投与はこれらの疾患や症状に効果があるが、生理的意義や作用は十分明らかではない。コラーゲン生成への関与、毛細血管抵抗性の増強や血液凝固時間の短縮などによる出血傾向の改善、副腎皮質機能への関与（ストレス反応の防止）、メラニン色素生成の抑制などが報告されている³⁾。

22. 包装

5mL 50管 褐色ガラスアンプル

23. 主要文献

- 1) 第十八改正日本薬局方解説書 廣川書店、2021：C-3188-3195
- 2) 第十八改正日本薬局方解説書 廣川書店、2021：C-6111-6118
- 3) 第十八改正日本薬局方解説書 廣川書店、2021：C-95-100

24. 文献請求先及び問い合わせ先

扶桑薬品工業株式会社 研究開発センター 学術室
〒536-8523 大阪市城東区森之宮二丁目3番30号
TEL 06-6964-2763 FAX 06-6964-2706
(9：00～17：30/土日祝日を除く)

26. 製造販売業者等

26.1 製造販売元



扶桑薬品工業株式会社

大阪市城東区森之宮二丁目3番11号